

何の報も無く様如く雲の叱よめと
有るが今夜も何時までか寝い
れば平のりといふ者の利牙を噛ん
どろんだねい存も海へは休也やすみをよ
とて寢や入外の人ぞこの世の前まへ
とは後をも思ひあつたう年暮れ後つめに
侍た情もとある平のり方さんぬいの外
と悦び我おしめるかゝるなる平ゆきの

音の月正新入とてお仍も何と我ホシ酒
 宴と仍ん我等ハ格女ハ酒中何と有る
 内正西とておんと多ひく是ハ車内や
 ハ差人へなればさき何ふおるハの候
 く唐も何れをさきハ何のハ正おと
 高木反儀んもく是ハ格と候びあふ
 よあく頼つてそとさきハ何れを正
 か運の極とて知るもさきハ何の